



CWAJによる国際女性デー トークイベント開催

2023年3月8日、CWAJとしては初の試みである国際女性デー トークイベントが国際文化会館にて開催されました。「Japanese Women Leading the Way」をメッセージに、第一線で活躍する3名の女性リーダー、茅野みつる氏（伊藤忠商事 現・常務執行役員）、宮地純氏（カルティエ ジャパン プレジデント&CEO）、大島まり氏（東京大学生産技術研究所教授、バイオマクロ流体工学）にご登壇いただき、会場には男性も交えた多数の聴衆が詰めかけました。まず3人のスピーカーからご自身の所属組織での女性活用の現状について経験談を交えてお話しいただいたのち、Q&Aタイムで会場から活発な質問が寄せられました。なかでも注目を浴びたのは中間管理職の女性からの質問で、3名のリーダーたちがそれぞれの立場から親身になってアドバイスを送る言葉に、全聴衆が聞き入っていました。トーク終了の懇談会・ネットワーキングタイムでは、参加者たちがグラスを手に、スピーカーや他の参加者と時間を惜しんで本音で語りあい、情報交換する姿が見られました。

このイベントが単なる講演会に終わらず、女性の社会進出を推進する場となったことは、主催者として大きな喜びです。多忙なスケジュールを調整してご協力くださったスピーカーの皆さまに心から感謝し、初めてのCWAJ国際女性デー トークイベントが成功裏に終了したことをご報告いたします。CWAJは次世代を担う女性たちが輝きを発揮できる社会の重要性を認識し、今後も一人でも多くの女性が活躍できる社会の実現を目指して活動を進めてまいります。

2024年の国際女性デー トークイベントは3月8日金曜日に日本外国特派員協会（FCCJ）にて予定しております。ぜひご参加、ご協力をお願いいたします。

1949-2024
CWAJは2024年に75周年を迎えました

お知らせ

第67回CWAJ現代版画展

2024年10月16日(水)ー20日(日)

ヒルサイドフォーラム
(代官山 ヒルサイドテラスF棟)

CWAJ特別展

10月8日(火)ー11月5日(火)

フレデリック・ハリス・ギャラリー
東京アメリカンクラブ (港区麻布台)

オンラインギャラリー

<https://cwaj-gallery.jp>

ご支援・ご協力のお願い

CWAJは年間を通して、教育・奨学金プログラムへのご寄付、並びに遺贈によるご寄付を受け付けております。皆さまからのご支援によりこれからの若者が大きな夢を叶えることができるのです。前年に続き、2023年も、カルティエ ジャパンより、CWAJの活動に共鳴して多大なご寄付をいただきました。同じくイタリアを代表するファッションブランドのロロ・ピアーナジャパンも、女性アーティストをご支援くださいました。

CWAJへのご寄付は、国際交流基金の「特定寄付金制度」を活用して、税制上の優遇措置が受けられます。ご寄付に関する詳細はメールでお問い合わせください。 donations@cwaj.org


2023年度 CWAJ奨学生より





「オックスフォードでの成長と発見」 石川凜 CWAJ Cartier 奨学金第1期生

MBAコースは、63カ国から集まった338名の学生、しかも半数以上が女性という環境で、大いに刺激を受けています。自身のコース外のセミナーでも、さまざまな分野の研究者や学生と関わり、その先々で新たな学びを得ることができます。また学生コミュニティイベントは将来のリーダーとつながる機会になります。共にモロッコやエディンバラを探索し、絆を深めました。私も日本文化体験イベントを主催する予定です。2024年の最初の学期では、「Impact Lab」という実践的なリーダーシッププログラムに参加できることになりました。とても楽しみにしています。この4か月の学び直しの中で、自身のビジネス中心の考えから一歩踏み出し、世界的な課題への多様な解決策に目を向けるようになりました。CWAJ Cartier奨学生としての留学生活は学問的な追求にとどまらず、文化交流、そして個人として大きく成長する機会となっています。

CWAJとは

 @TheCWAJ

 @cwaj_japan

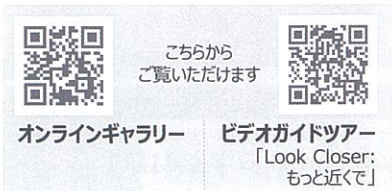
 cwaj.org

一般社団法人CWAJ(カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン)は、「女性が女性を支える」という理念のもと、CWAJ奨学金、CWAJ現代版画展、視覚障害者や児童養護施設の子どものための英語教育など、さまざまなプログラムを通じて教育・文化の推進に努めている非営利ボランティア団体です。約25か国から集まった約400名の女性会員が、無償のボランティアとして幅広い交流の中で友情を深め、楽しみながら教育・文化活動を行っています。1972年に創設されたCWAJ奨学金は、国内外の女子大学院生・視覚障害男女学生など、のべ約900名に支給され、各界のリーダーを育ててきました。また、2021年度からはコロナ禍への取り組みとしてCWAJ看護学生奨学金を立ち上げるなど、常に社会のニーズを見据えて活動しています。ボランティア活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語で行います。CWAJ入会についてのお問合せは membership@cwaj.org へどうぞ。

第66回 CWAJ現代版画展



第66回CWAJ現代版画展委員会賞
岡田育美「AM 5:00」木版



版画がはぐくむ絆

2023年10月18日～22日、第66回CWAJ現代版画展が代官山のヒルサイドフォーラムで開催されました。秋晴れにも恵まれて、会場は連日多くのお客様、作家、会員で大盛況となりました。また行動制限の撤廃を待ちかねていた多数の海外会員が版画展に合わせて来日し、到着早々旧交をあたためながらボランティアとして働くなど、仕事を通じて長い友情を育んできたCWAJらしい光景が見られました。

15日の夕刻に行われたオープニングレセプションでは、大勢の招待客やアーティストを前に、各賞の受賞式が行われました。乾杯のスピーチは、2009年のCWAJ奨学生で、現在はワシントンDCの国立アジア美術館で日本美術担当学芸員を務めるキット・ブルックス氏。版画展に合わせて来日した同氏は、留学時代から現在にいたる日本版画研究の過程に触れ、CWAJとの出会いが現在のキャリアへの道を拓いたと熱く語りました。

CWAJではコロナ禍の影響を受けた2020年以来、画像審査を導入するなど試行錯誤を続けています。2023年は前年に続き、作家提供の作品画像による一次審査の後、実作品で二次審査を行うという形をとりました。2023年春に同じ建物内で事務所を移転したおかげで、この二次審査を含め、ほぼすべての版画展関連作業を会の事務所で行うことができたのは、長年の夢がかなった思いです。

2021年から始まったビデオガイドツアーは「Look Closer: もっと近くで」と題して、目をこらすと新しい世界が見えてくる作品20点を紹介しました。会場でのガイドツアーも一日に複数回行われ、定時ツアーやグループ予約のお客様が作品の前で熱心にガイドの解説を聞いていました。

10月20日にはキット・ブルックス氏による『嚔嚔：何はともあれシリアスはどぶに捨てよう』と題したギャラリートークが日本語と英語で行われ、多数の観客を集めました。22日には、日本でただ一人となった伝統的ばれん職人の後藤英彦氏によるばれん制作の実演とトークが行われました。同氏はCWAJ出品歴21回の著名な木版画家でもあります。

代官山の会期終了後の約1週間、CWAJ現代版画展オンラインギャラリーで全作品を販売しました。

ハンズ・オン・アート

恒例の「ハンズ・オン・アート」プログラムでは、東京都現代美術館のご協力のもと、近年新たに開発されたテクノロジーを使ってカラー触図（立体コピー）を作成しました。視覚障害のある来場者たちは、ボランティアの解説を聞きながらカラー触図をさわって鑑賞し、その後説明を受けながら会場内を回るなどして版画展を楽しみました。また東京都現代美術館学芸員鳥居茜氏による、視覚障害のある方もない方も一緒に参加できる「触覚学習ツール」を使った版画制作ワークショップも開かれました。

CWAJ特別展

9月13日から3週間、5年ぶりに東京アメリカンクラブのフレデリック・ハリス・ギャラリーで特別展が開催されました。「炸裂する色彩」と題し、嚔嚔、矢柳剛、池田満寿夫、田中博の国際的に活躍した作家の大胆かつユーモアのある作品をお楽しみいただきました。いずれも1930年代に生まれ、プライベートでも親交があり、1960年代からCWAJ版画展に何度も出品して人気を博したCWAJゆかりの作家たちです。本特別展は、元CWAJ奨学生でスミソニアン国立アジア美術館日本美術担当学芸員のキット・ブルックス氏が企画し、同博物館サッカー・ギャラリーにて開催された嚔嚔展に着想を得ました。



2023年度 CWAJ ロロ・ピアーナ女性 アーティスト奨励賞 賞金50万円

上原 あかり 東北芸術工科大学大学院
イタリアを代表するファッション・ブランドのロロ・ピアーナ・ジャパン社のご協力により設けられた特別賞です。この賞が女性アーティストのさらなる飛躍と日本の版画界の発展に寄与することを願っています。受賞者の上原あかりさんは、研究の末にたどり着いた独自の技法「レジプリント」を使って版画を制作しています。「私は見る人の心に小さな灯りをともしせるような作家になりたいと願っています。」



2023年度 CWAJヤング・プリントメーカー賞 (YPA賞) 賞金50万円

佐藤 翼 多摩美術大学大学院
賞金は、調査や、版画集の制作、制作の研究発表として個展を開催するための費用とする予定です。
「私は、プリミティヴィズムのエッセンスと木版画を用いて、現代社会におけるコミュニケーションの複雑性等の言語化できない感情の視覚化をテーマに制作しています。」

5月スカラシップ月例会

新年度のCWAJ奨学生を5月の月例会で支援者の皆さまと会員にお披露目することはCWAJの長年の伝統であり、奨学金委員会にとっては一年のハイライトです。コロナの世界的流行により4年間オンラインでの会合を余儀なくされていただけに、2023年5月17日に日本外国特派員協会（FCCJ）で月例会を開催し、2023年度のCWAJ奨学生を対面で皆様に紹介できたのは、誠に喜ばしいことでした。

CWAJ奨学生が世界中のさまざまな場所で確実なインパクトを与えていることは誇らしい限りです。すべての奨学生がより良い世界を創るために、高い目標を達成することを願っております。



月例会スピーカー：大石佳能子（1986年 CWAJ海外留学大学院女子奨学生）

「日本の古い慣習にしばられた社会から飛び出す勇気をくれたのはCWAJ奨学金です。私自身は海外で勉強したいと強く思っていたのですが、周りで賛同してくれる人はほとんどいませんでした。CWAJ奨学金からはもちろん勉強に必要な資金を頂きましたが、私にとってもっと意味があったのは、頑張って！貴女なら出来る！と大きく背中を押してもらったことです。」

大石佳能子さんが大阪大学を卒業し最初に勤めたのは日本を代表する大手の金融機関でした。雇用機会均等法前の当時、職場において女性の役割は男性のサポート役でした。そこに満たされない思いを持った大石さんはハーバード大学の経営大学院（MBA）を目指しました。女性社員は企業留学の対象外だったので、CWAJ奨学金を得て、学費、生活費に充てることが出来たのは、幸運なことでした。大石さんのキャリアは卒業後大きな変化を遂げます。世界的な戦略コンサルティング会社マッキンゼー&カンパニーに就職し、5年でパートナー（役員）に昇進。マッキンゼー勤続10年を過ぎた頃に男児を出産した大石さんは、

次の世代のために役立つことをしたいと考え始めました。医療界でのコンサルティングを行う中で、日本の病院の多くでは、患者も働く医師・看護師等もその現状に満足できていないことを知った大石さんは、2000年にマッキンゼーを辞して株式会社メディヴァと医療法人社団プラタナスを起業しました。傘下のクリニックで患者視点の革新的な取り組みを展開し、医療という保守的な分野でも変革は可能であることを実証しました。

大石さんの将来の夢は海外展開です。彼女の本当のキャリアはCWAJ奨学生に選ばれたところから始まり、今後も国内外で医療介護分野でも課題を解決していくことを目指しています。

2023年度 CWAJ奨学生



CWAJ 海外留学大学院女子奨学金（SA）

1名 支給額 300万円

光門 舞花（みつかど まいか）

東フィンランド大学森林学修士課程
（フィンランド共和国）

CWAJ 海外留学文化交流大学院女子奨学金（SA）

1名 支給額 300万円（この奨学金は国際交流基金の支援を受けています）

ニウシャ ローズ

カリフォルニア大学バークレー校博士課程
（アメリカ合衆国）

CWAJ Cartier奨学金（SA）

1名 支給額 300万円（この奨学金はカルティエ ジャパンが資金を提供しています）

石川 凜（いしかわりん）

オックスフォード大学大学院経営学研究科修士課程（英国）

CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金（NJG）

1名 支給額 200万円

オラ マムーンアハメド モハメド（スーダン共和国）

名古屋大学大学院土木環境工学プログラム環境学
研究科博士課程

CWAJ 外国人留学生文化交流大学院女子奨学金（NJG）

1名 支給額 200万円（この奨学金は国際交流基金の支援を受けています）

エリザベス ガマラ（アメリカ合衆国）

国際基督教大学（ICU）アーツ・サイエンス研究科
博士後期課程

CWAJ 視覚障害学生奨学金（SVI-SJ）

2名 支給額 各 150万円

金澤 悠人（かなざわ はると）

慶應義塾大学総合政策学部4年

菊地 桃依（きくち ももい）

東北大学法学部4年

CWAJ 看護学生奨学金（NS）

5名 支給額 各50万円

江島 つばさ（えしま つばさ）

聖路加国際大学看護学部看護学科
4年

菊池 明香里（きくち あかり）

福島県立医科大学看護学部看護学
科4年

澤田 琴美（さわだ ことみ）

東京女子医科大学看護学部4年

添野 彩佳（そえの あやか）

聖路加国際大学看護学部看護学科
4年

田中華（たなか はな）

聖路加国際大学看護学部看護学科
4年



コミュニティ・プログラム

視覚障害者との交流会(VVI)

視覚障害者との交流会(VVI)は、視覚障害のある人たちに英語による学びと交流の機会を提供しています。CWAJ及びVVIの活動の案内は、181名の購読者に電子媒体と点字でVVIニュースレターとしてお届けしています。

2023年は6月と10月に、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部の生徒を対象に実用英語技能検定(英検)のための模擬面接をオンラインで実施しました。21名の生徒が参加し、VVIのボランティアが英語力向上のためのアドバイスを行いました。また同校の生徒の希望者には、オンライン電話システムを利用して、ボランティアと1対1で英会話の練習を行う、英会話パートナー(English Conversation Partners, ECP)のサービスも提供しました。

日本視覚障害者職能開発センターでは、週2回、英語の授業を担当しました。視覚障害のある成人受講生のキャリアアップに役立てられるよう、職場で英語を話す力が身に付く授業を提供しています。

VVIは、楽しい催しも開催しています。8月には、視覚障害者とボランティアが集まり、音声ガイドを備えた映画館、シネマ・チュパキ・タバタで英会話の集いを開催しました。ドキュメンタリー『僕たちの哲学教室』を鑑賞した後、英語でディスカッションを行いました。

子供のための英語支援の会(EOC)

「楽しく英語を」をモットーに西東京市の児童養護施設、聖ヨゼフホームで行っていた英語のクラスを再開することができました。訪問の際には、その時節にふさわしい英語の絵本を選び、プログラムを組み立てました。その絵本には、英語の原文とボランティアが翻訳した日本語の朗読の音源へのリンクがQRコードで、添付されています。これによりいつでも誰でも英語と日本語で絵本を聞くことができます。児童たちを訪問して、英語の単語や言い回しを学ぶ手助けができることは光栄です。クラスを少人数に分けて、各ボランティアが一人一人の児童に注意を注ぎ、練習ができるように配慮しました。児童たちは3つのステーション(絵本朗読、ゲーム遊び、クラフト作り)を回り、それぞれに異なるセッティングの中で、楽しく英語に触れ、学習できるようなクラス作りをしました。

外国人留学生との交流会(FSC)

FSCは、留学生や元留学生のために日本文化の紹介をするプログラムを提供しています。また留学生がメンターであるボランティアと親交を深める良い機会になっています。今年は以下のプログラムを行いました。

4月 ウォーキング: ガイドと共に江ノ島を訪れ、地域の歴史について学びました。

6月 着物教室: 講師を招き、振袖や100年以上前のアンティーク小物(かんざし、櫛、等)を鑑賞しながら、多数の浴衣や帯から、好みのものを選んで、着付けにトライしました。

7月 歌舞伎教室: 9日と15日の2回開催し、計26名の参加者が歌舞伎『引窓』を鑑賞しました。前半の歌舞伎講座で歌舞伎全般や効果音の意味などの説明を受け、後半の観劇をより楽しむことができました。

10月 CWAJ版画展と太田記念美術館訪問: 10名の参加者は、美しい現代版画とハンズオンアート(HOA)での説明を楽しみました。

11月 清澄庭園と深川江戸資料館訪問: 2023年最後のプログラムは清澄庭園でのガイドツアーとランチピクニックでした。ランチの後、深川江戸資料館を訪れ、再現された江戸の町並みにその時代の人々の生活を感じることができました。

月例会プログラム

CWAJは2023年を通して、ハイブリッド(5月、6月、9月、12月)とオンライン両方の形式を用いて月例会を開催し、さまざまなトピックを取り上げることができました。



1月: ジョージ・オルコット氏(大学院大学至善館客員教授、大手企業数社の社外取締役)は、いかにして日本企業が他国企業と差別化を図り、国際競争力を確立できるかについて講演しました。



6月: ロシェル・コップ氏は、ジャパン・インターカルチュラル・コンサルティング代表。ビジネスや地域社会の問題において、女性が効果的にコミュニケーションを図り、声を上げることで、どのような変化をもたらすことができるかについて講演しました。



2月: ランス・ガトリング氏は、長年日本に在住する地政学・軍事アナリスト。日本が国家安全保障において直面する脅威と、対処するための準備について講演しました。



9月: 2023版画展キックオフ講演として、版画家で武蔵野美術大学教授の遠藤竜太氏に「多様化する版の表現」というテーマで日本の版画の歴史的な見直しと、その未来を形作る革新的な技法について解説していただきました。



3月: 阿部菜穂子氏(元毎日新聞記者)は、英国在住のジャーナリストでノンフィクション作家。著書『チェリー・イングラム-日本の桜を救った英国人』をもとに、日英両国における桜の歴史的象徴とその魅力について解説しました。



10月: ジョシュ・グリスデール氏(アゼリー・グループ・マーケティング部マネージャー)はウェブサイト「アクセシブル・ジャパン」の制作者であり、自身も車いす生活を送る。日本が障害者にとっていかにアクセシブルであるか多言語で情報を伝えること、さらなる改善を主張し続けることが、いかに重要であるかを語りました。



4月: クリス・ブラッカビー氏(アストロスケール・ホールディングス最高執行責任者 COO)は、軌道上ハイウェイに散乱する衛星の破片の除去など、宇宙空間に急増する人工衛星をサポートするための事業展開について講演しました。



11月: マニユエル・タルディッツ氏(明治大学建築学科教授、建築事務所みかんぐみの共同設立者) フランス人建築家の彼に日本の建築が与えた影響について語りました。



5月: 大石佳能子氏は、日本とベトナムでプライマリ・ケア、在宅医療、健康診断のクリニックを12軒運営する医療法人社団プラタナスの総事務長。CWAJの奨学金が彼女のキャリアを成功に導く上でいかに重要であったかをメンバーと分かち合いました。



12月: 文化庁芸術祭大賞などを受賞したフラメンコダンサー佐藤浩希氏が自身のカンパニーArte y Soleraとともに、華麗なフラメンコを披露しました。

